武　一　中

令和８年２月16日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R7－19号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

でこぼこは強い

校　長　　中嶋　建一郎

皆さんの得意なことは何でしょう。苦手なこともありますか。この得意、不得意のイメージを立体にすると、皆さんは凸凹している立体になりそうです。私もそうです。

クラスの友達と協力して何かを成し遂げようとする時は、この凸凹が重なり合うイメージです。凸同士、凹同士が重なると横揺れに弱そうです。でも、凸と凹が重なると頑丈で、多少の揺れにはびくともしません。技術の木工で強い木の組み方を習ったでしょう。修学旅行で訪れる京都の清水寺の舞台という 13mほどの見晴らしの良いデッキのようなところは釘無しで木を組んでいるそうです。それくらい強くなるのです。

凸同士というのは、お互いに似ていて同じような性格だったりするときにある状態だと考えてください。そして、凸と凹は、相手の出っ張っているところがへこんでいて、逆に自分が出っ張っているところが相手はへこんでいる状態です。得意、不得意が逆だったり、活動的な人と大人しい人だったりなんです。たぶん、普段は活動的な人同士で遊んだり、大人しい人同士で話したりしていると思います。

この凸凹の考えを広げると、性別、年齢、人種、価値観など、世の中で大切だと言われている多様性につながります。

多様性はどうして大切なんでしょうか。最初に話した凸凹の立体で考えると頑丈になるからだと思いませんか。もう少し考えを広げると、様々な考えを合わせることで、新たな発想が生まれたり、課題解決が出来たりして、人がより発展できるということが考えられるからです。

多様性が大切だと言われるには、もうひとつ大きな理由があると思っています。それは、難しいからです。

凸凹の話にもどると、凸は凸同士、凹は凹同士の方が気が合い、話も早く生活もスムーズなんです。同じ趣味の話が出来て、好きなものも似ている人だと一緒にいても疲れません。一方、凸と凹だと趣味も好みも違い、考えを理解するにも時間がかかります。放っておくと凸と凹はなかなか一緒になりません。だから、あえて目標に取り入れて凸と凹が協力していくようにしているのです。

凸凹がいつも協力出来て、良さを出しあっていけたら理想的かもしれません。でも、それは大変でしょう。私は、普段は、凸は凸同士、凹は凹同士で良いと思っています。でも、必要な時に凸と凹が協力すると大きな力になることを思い出してほしいのです。授業中や行事で力を合わせるとき、皆に共通する課題を解決するときなど、凸凹の力を発揮してほしいと思っています。

2月16日全校朝礼より

【一中生の活動の記録】

【吹奏楽部】

第四十九回　東京都アンサンブルコンテスト　　金管七重奏　　銀賞

1月25日(日)に第 59回東京都中学生アンサンブルコンテストで金賞を受賞した第一中学校吹奏楽部が、2月8日(日)に第49回東京都アンサンブルコンテスト(都大会)に出場しました。出場 415校中17位という成績を収めましたのでこちらにて紹介いたします。

【第一小学校　新年子ども会　ボランティア】

1A 櫻井　穂香　　1A 小豆川　紗希　　1A 西野　晴
1B 泉直　輝　　1D 冨沢　心都葉

正月のお飾りの分別、どんど焼きの組み立て、点火・見張り、得意な(好きな)伝承遊びの指導、片づけまで、それぞれの持ち場で一所懸命積極的に取り組んでくれました。